



就業体験

10月18日～
20日実施

本年度も、但馬内50カ所の事業所様のご協力をいただき、就業体験を実施することができました。ご協力いただきました事業所様には、多大なご負担をおかけしたと思いますが、生徒たちは貴重で有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

生徒が就業体験を通じて、感じたことを感想文にまとめていますので、生徒代表の作文を紹介させていただきます。

1年3組 清水 胡桃さん (グループホームはちぶせの里)

私は、今回初めて老人ホームへ就業体験に行きました。最初は、老人ホームは大変そうだし、不安ばかりでした。初日のとき、すごく緊張しながら行くと、入居者の皆さんが明るく話しかけてくれて、緊張をほぐすことができました。生け花やお菓子作りを一緒にしたりして、結構なじめたかなと思いました。そして、私が入居者の皆さんの洗濯物を畳むのを手伝おうとすると、職員の方が、「私たちは見守るだけでなるべくほとんどのことは入居者さんたちがするから大丈夫だよ」と言われました。それを言われて、見守っていると本当に器用に畳んでいて、自分よりも上手いと感じました。入居者の皆さんは色々なアドバイスをしてくれました。

2日目には、緊張もなく行うことができました。天気が良く、外で日向ぼっこをしながら、たくさんの入居者の皆さんと会話することができました。一緒に買出しに行ったりもしました。その時に、私は入居者さんの車椅子を押していたのですが、中学の時に車いす体験で押すのを経験していたので、上手く押すことができました。風船バレーや輪投げ、色紙はりなどを楽しく終えることができました。そして、職員の方や入居者の皆さんに笑顔がいいねと言われて、とてもうれしかったです。

3日目には、すべてが楽しくて、時間が過ぎるのが早く感じました。フラワーアレンジメントや風船バレーをしました。2日目に体験したときは、風船バレーの加減が分からなくて、飛ばしすぎたりしていたのですが、3日目は上手くできてよかったです。そして、最後の仕事は、色紙で花を作ることでした。本当は16時30分で切り上げて日誌を書くのですが、最後までやり切りたくて、全て終わりました。

今回の就業体験は3日間だけでしたがとても充実していて、皆さんに最後のお礼を言うときとても悲しくなりました。まだ終わりたくないと思いました。だからこそ、今回学んだことや気づいたことを活かしていきたいです。気づいたことがあります。入居者の方を手助けするために働いたとき「ありがとう」と言われました。たった五文字の言葉なのですが、その言葉を言われたとき心の底からうれしかったです。そして、自分にもできることがあるんだと気づくことができました。また、職員さんから言われたことで、「言葉だけでなく表情やしぐさなどの非言語のコミュニケーションも大切」だと学ぶことができました。この3日間でたくさんの発見や学ぶことが多くあり、本当にはちぶせの里に行ってよかったと思いました。



はちぶせの里



ポムの樹

宿南子ども園

1年1組 北垣 結菜さん (ファッションセンターしまむら)

しまむらに行ってたくさんの仕事をさせていただきとてもいい経験ができました。しまむらでは、レジのサッカーや商品整理、床そうじ、マネキンのコーディネート、ダンボールからの商品出し、ダンボールをつぶすという作業など、いろいろな作業をしました。一番しんどかった作業はBRでのダンボールから商品を出し、ダンボールをつぶすという作業です。小さいダンボールもあれば大きいダンボールもあり、意外と体力を使う仕事でしんどかったです。また、難しかった仕事はレジのサッカーです。レジのサッカーは、商品を袋に入れるという仕事です。しまむらの商品は服だけでなく、布団やカーペットやクッションなど大きい商品や靴下やアクセサリなど小さい商品もあり、どの大きさの袋に入れるかが難しかったです。レジの仕事は、袋に入れるだけでなく、お客様が来店されたら、「いらっしゃいませ、こんにちは」といい、帰るときには、「ありがとうございます」と大きな声で言わないといけません。はじめの頃は、恥ずかしいというのもあって大きな声で言えなかったけど何回もしているうちに慣れてきて少しずつ大きくなって大きな声で言えたと思うのでよかったです。楽しかった作業は、商品出しと商品整理とマネキンのコーディネートです。商品整理とは、商品の向きやハンガーの向きをそろえたり、ボタンが外れているのを直したりする作業です。商品出しとは、袋に入っている商品を出して、ハンガーにかけるという作業です。この商品整理と商品出しの仕事は、大変だったけど、いろいろな服がみられて楽しかったです。マネキンのコーディネートでは、自分の好きなコーディネートができるのは楽しかったけど、どんな感じがいいのか、テーマなどが決まらずとても悩みました。

どの作業をするにも、ずっと立ってする仕事ばかりで3日間とても疲れしました。しまむらの従業員の方は、それを毎日やっていますすごいなと思いました。この3日間で学べたことは、働くときなどのマナーです。他にも仕事をする大変さや大切さも学べたのでとても充実した3日間になりました。



本年度も2年次生118名が沖縄への修学旅行に行っていました。初めての飛行機、初めての沖縄に大きな期待と不安を持ちながら出発していきました。1日目の平和学習から民泊、マリンスポーツ、国際通りとあつという間の4日間だったのではないのでしょうか。

平和学習では、戦争の悲惨さや命の大切さを改めて心に刻み、民泊では地元の方々との寝食を共にし、沖縄の生活文化を体験し、マリンスポーツでは沖縄の雄大な自然を肌で感じることができました。

修学旅行の感想文を掲載いたします。

2年1組 古川 龍聖くん

1日目、朝6時という早い時間から一人も欠けることなく集合したが、どういう4日間になるのか、きちんと班行動などができるのだろうか、とても不安でした。そんな気持ちでバスに乗りました。

沖縄につくと気候が全く違って、とても暑く飲み物がないとやっていけないくらいでした。そんな感情を持ちながら、平和祈念資料館に行きました。ここでは戦争の記録がずらりと並んでいて、気分のいいものではありませんでした。平和祈念公園では代表の人が戦争で亡くなった方への平和の誓いを述べて1分間の黙祷をしました。ホテルに着くと、夕食後にレクリエーションで歌の練習をしていたのが印象的でした。

2日目は民泊に行きました。お世話になった人は親川さんという方で、とても優しい方でした。そして沖縄ワールドというところに行きました。そこでは、民族的な踊りをみたり蛇と一緒に写真を撮るなど思い出づくりがしっかりできました。午後には、近くの海に連れて行ってくださいました。海に入るのは約6年ぶりくらいでした。小4のとき以来、入ってないので久しぶりに入る海はとても気持ちがよかったです。帰った後も班員のみなどと、いつも学校にいる時とは違った感じで遊ぶこともでき、とても楽しい2日目になりました。

3日目には、朝、お世話になった民泊の方にお礼として「海の声」をみんなで歌い、お別れを告げました。マリンスポーツでは、シュノーケリング、バナナボートに乗りました。シュノーケリングでは海の様子をはっきりと見ることができ、とても魚たちがきれいでした。バナナボートではボートが引っ張られていくのにもとても疾走感を感じました。マリンスポーツが終わった後は、昼食をはさみ美ら海水族館に行きました。ここでの魚もとてもきれいでとくにジンベイザメはとても大きく、迫力がありませんでした。

4日目は国際通りでお土産を買いました。国際通りなので、空港や沖縄ワールドとは違うお土産などがたくさんありました。お土産も買い終わり、飛行機に乗り、バスに乗り換えていつも知っている和田山に帰ってきました。

この4日間で学んだことは、今この瞬間が何にも代えられない時間で、大切なもので、大切にしていけないといけないのだと、班員のみならずクラスメイトと過ごして、身をもってわかりました。この経験は自分自身にとって何にも代えられない大切な思い出になりました。

1日目



2年2組 松田 真琴さん

ひめゆり平和祈念資料館では、実際に使用されていたガマの前でご冥福を祈ってクラスごとに黙とうをしてから建物の中を見学しました。たくさんのパネルや写真などの展示品から、その当時の戦争の激しさが伝わってきました。今の私たちとほぼ同年代の男女が沖縄を守るために戦争に参加していたと思うと、かき今私たちが恵まれているのかを強く感じました。

普段の生活の中で命の危険に迫られることなく自分のしたいことを自由にできる今とはかけ離れた生活をし、自分のしたいことを自由にできず、常に命の危機と隣り合わせの生活は、精神的・肉体的にも物凄いストレスや負担だったと思います。改めて平和の大切さや戦争の恐ろしさを感じ、後世に引き継いでいかなければならないと思いました。戦争は互いに憎しみや悲しみなど負の感情しか生み出せません。世界では、まだまだ戦争や紛争などが起きています。今後、戦争ゼロの世界を目指していくためには1人1人が平和について考え・行動していくことが大切だと思いました。

2日目



2年3組 中尾 美卯さん

学生生活最後の修学旅行は最高に楽しかったです。先生たちのauのコスプレも仁和で海の声をうたったのもすごくいい思い出になりました。民泊ではサーターアンダギー作りが私は思い出に残っています。みんなで楽しく作って、それを民泊の方が動画でとってくれました。ほんとにみんなと作るのが楽しくていっぱい笑って、笑いすぎておなかが痛いくらいでした。出来上がったサーターアンダギーはとてもおいしく、また家族のお土産にといっておかしい袋に包めるよう、民泊の方が準備をしてくださっていました。そして、沖縄といえば海！私たちの住む兵庫県では見ることでできない真っ青の広い海に感動しました。あの海に会いにまた沖縄に行きたいと思えるほどです。そんな沖縄の海でのマリンスポーツはもう1度したいくらい最高でした。シュノーケリングでは、真っ青の深い海にたくさんいる魚たちを見ていると人魚になった気分でした。私たちが行った時期は1番水が綺麗らしく、50mはあった海の底がはっきり見えるくらい透明でした。

楽しいこともたくさんあったけど、平和学習では今の私たちがどれほど幸せかとてもよく分かりました。ひめゆりの塔で読んだ本には、今の私たちにはわからないくらい辛く悲惨な体験をした方々の話を書いてあり、読んでいただけでも怖かったです。戦争はほんとに悪いものしか生まれないと改めて学びました。沖縄の歴史や沖縄の料理、最高に楽しかった修学旅行はいろいろ学ぶことが多かった修学旅行になりました。

そして、修学旅行を楽しめたのは家族のおかげでもあります。財布を開けたら挟んであった家族からの手紙は、びっくりと同時にとてもうれしかったです。国際通りでたくさん買ったお土産をみんなに渡したり、修学旅行の話をしたり、みんなで撮った写真を見ていると、とても沖縄に行きたくなります。ほんとにみんな楽しそうで、お気に入りの写真ばかりです。それくらい楽しかった沖縄にまた行こうと思います。沖縄、最高の思い出をにふえ〜で〜びる！

3日目



4日目



おまけ



但馬英語スピーチコンテスト

10月10日
開催

10月10日(月)に行われた但馬英語スピーチコンテストに本校2年生の森 彩夏さん、川本 愛莉さんが出場しました。結果は、森さんが見事優勝、川本さんが4位という素晴らしいものでした。強豪校を押ししのけ、このような良い結果を出すためには、放課後や休み時間なども使ったたくさんの努力があったと思います。努力すれば強い相手にも勝てるということを本校の生徒に教えてくれるとても明るい話題となりました。



 森 彩夏さん 優勝！！

 川本 愛莉さん4位入賞！！

心の絆講演会

11月22日

11月22日(火)に、兵庫教育大学の新井肇教授を講師として招き、「青年期の心の危機にどう向き合うか～折れない心で危機を好機に～」という題目で講演をしていただきました。心の危機が起こる仕組みや、心の危機を乗り越えるための方法などについて、具体的な例を示しながらわかりやすく解説をしてくださいました。生徒たちにとっても身近な話題であり、真剣な様子で講演に聞き入っていました。

講演後には、各HR教室で講演会の感想を書き、グループで意見交換をしました。「心の危機に陥っている友達を、周りが支えてあげることが大事ということがわかった」「春夏秋冬の例えがとても印象に残った」「つらい思いをしている友達に手を差し伸べられるようになりたい」など、さまざまな感想が飛び交い、活発なグループ活動となりました。

花いっぱい運動

10月14日
10月26日

毎年恒例の花いっぱい運動を行いました。和田山町内の施設へプランターに植えたパンジーの花を配布させていただきました。和田山町内が少しでも明るくなるように、施設の方々に喜んでもらえるようにと花の植え付けから行いました。

今年度は、10月14日(金)に特別支援学校との交流として、本校3年次生と和田山特別支援学校の生徒3名で植え付けを行い、どちらの生徒も楽しそうに笑顔を見せていました。それぞれ配布した場所で、生徒たちの笑顔のような明るい花を咲かせてくれることを願いながら10月26日(水)に各施設へ配布させていただきました。配布した日はあいにくの雨だったのですが、快く受け取ってくださった皆様には感謝しております。ありがとうございました。



ホームページ随時更新中。是非覗いてみてください

URL : <http://www.hyogo-c.ed.jp/~wadayama-chs/>

最新情報は

和田山高校

検索 

兵庫県立和田山高等学校

〒669-5215

兵庫県朝来市和田山町枚田岡 376-1

TEL : 079-672-3269

FAX : 079-672-3260

編集 : 総務部 広報担当